

運営委員会だより

運営委員 内藤 真治

◇フォーラムに「非常事態宣言」？

某月某日の運営委員会で、財務大臣？の長塩さんから緊急発言。「フォーラムの財政がピンチです。今月の家賃はなんとかなりますが、電話代の請求が来ると払えるかどうか。ついては運営委員のみなさんは4月早々に年会費を納めてください」。

高校教育研究所時代をふくめ滅多にない事態。会費制で運営する団体はどこも会費徴収に苦労しているが、要は会員の絶対数が少ないこと。衣替え以来、高校の現役・退職者以外の保護者や一般市民にも間口を広げたがまだまだ少ないのが悩みの種。

会員が300名を超えればなんとか安定した財政運営ができると思っているのだが。

ぜひみなさんにも、フォーラム会員の拡大についてご協力をおねがしたい。

◇目を開かれた！

本誌前号「すなっぷ」の県立盲学校取材記事とたまたま照応した「若者のひろば」「視覚障害を持った松本英樹の話」に会員の声と運営委員会における合評での反響が集中した。松本さんは22号で紹介されたバンド“The Whisky Blossom”のメンバーから引き続いての登場だったが、その語り口の巧みさと障害を感じさせない可能性の豊かさに感動したとの感想が多かった。

それに引きかえ、なまじ健常者と言われる私たちのほうが実はモノが見えていなか

ったのではないかと反省させられた次第。

つづいて今号の「すなっぷ」は初めて桐生天沼小学校の特別支援学級を取り上げた。

最近はやたら使われすぎている感のある“寄り添う”よりも、徹底して子どもの目線に立つ高橋先生への信頼が彼の学級を成り立たせているのだと思う。取材を許してくださった学校と高橋先生に感謝したい。

◇子どもの貧困にどう向き合うか

フォーラムの今年度総会は別紙案内のとおり、5月23日（土）に行われる。午後の総会行事は今年も子どもの権利委員会との共催で、テーマは『子どもの貧困』の実態と支援体制を考える。

格差社会における貧困の連鎖は民主主義の根幹にもかかわる問題だとして「教育ネットワークぐんま」も一枚加わる。

それにしても「一億総中流」は昔の話、今や16.3%、6人に1人が相対的貧困の状態に苦しんでいる。この人たちは決して怠け者、遊んでいるというわけではない。

「働いた汗より株がでかい顔」という川柳があったが、新自由主義の下で拡大し続ける格差は経済成長にとってもマイナスだという指摘もあるようだ。

「近現代ゼミ」は16年目、いささか疲れた感は否めないが、現政権の歴史認識には我慢ならず、5月から第4期としてやや趣を変え、もう少し続けるつもりでいる。

今後の主な予定

4月25日（土）10時～	子どもの野外活動部会（観音山で化石発掘）
4月27日（月）15時～	原発と自然エネルギー研究部会（フォーラム）
5月1日（金）13時～	スタジイ楽書会（フォーラム）
5月2日（土）13時30分～	子どもとメディア研究部会（教育会館3F小会議室）
5月15日（金）13時～	スタジイ楽書会（フォーラム）
5月23日（土）10時～	第6回総会・総会企画（生涯学習センター）
5月30日（土）14時～	近現代史ゼミ（前橋市総合福祉会館）

育ちと学び No. 24

ぐんま教育文化フォーラム

2015年4月24日 発行

〒371-0026 前橋市大手町3-1-10 教育会館3F

[TEL・FAX] 027-235-8876 [IP電話] 050-3419-3803

[E-mail] g-kyoken@nifty.com

[URL] <http://gkb-forum.sakura.ne.jp>

